

2012年1月30日

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局 御中

白鶴酒造株式会社

“PETボトル入日本酒”の販売に関する再質問への回答

1. 質問1の食味についてですが、ご回答には「官能検査によって確認されている」とのことで、問題ないとされています。

この点につきまして、劣化の早いプラスチック容器が数千年の歴史があるガラスびん容器と同じ品質を保持できるとは思えません。先の質問でも、きちんとしたデータで示してくださいとお願いしておりましたが、改めまして、＜通常のPETボトル＞＜ガラスびん＞＜御社のDLCコーティングしたPETボトル＞の食味試験のデータを教えてください。

(回答)

前回お答えいたしました通り、貯蔵した場合の賞味試験につきましては、日本酒度、アルコール分、酸度、アミノ酸度、色度の一般分析と官能検査を行い、通常想定されます期間内（1年間）でご賞味いただいても問題ないことを確認しております。

データにつきましては、企業秘密に関わる社外秘の内容を含んでおりますので、なにとぞご容赦願います。

品質保持に関しましては、今回、酸素バリア性の高いDLCコーティングを採用しており、ガラス瓶に近い品質保持性能があると評価しております。

2. 質問3では、PETボトルには酸化防止剤などの化学物質を添加していないとのご回答です。

この点について、インターネットで調べたところ、ペットボトルは添加剤を使わないでも作れるが、副生成物としてアセトアルデヒドが発生するそうです。この物質が発生すると風味に影響があるとのことですが、おいしさが一番大切である日本酒に影響ありませんか？

(回答)

アセトアルデヒドは果物など食品中にも含まれる、果実臭を感じさせる物質であり、PETボトル内容物に移行する量が著しく増加すると風味の変化を感じる場合があります。これを防ぐために、PETボトルの製造においては、この含有量の増加を抑制して風味に影響が出ないように製造工程を管理しております。

また、当社といたしましても保存試験において味覚・風味の確認をして、その影響の無いことを確認しております。

3. 質問4についてですが、「一升瓶の拡売は当社の重要な課題と位置付けている」とのご回答には、一安心いたしました。

が、我が国のこれまでの例では、“消費者ニーズ”というものが、すべて消費者が本当に望んだものだけでなく、残念ながら事業者に作られたものも多々ございました。

今後、御社のDLCコーティングしたPETボトルの売れ行きが伸張した場合にも、リユースの代表選

手である一升瓶の拡売が維持されるのでしょうか？

(回答)

繰り返しのご回答となりますが、本商品は1.8L瓶の代替容器としてではなく、日本酒の市場活性化施策の一つとして発売しましたため、1.8L瓶の拡売努力が維持されなくなるようなことはございません。

また、日本酒は嗜好品であるため、お客様が様々なシーンや用途に合わせて商品(容器)を選ばれております。消費者の方々には今後とも、1.8L瓶の需要拡大にご協力をお願いしたいと存じます。

4. 質問5についてですが、「事業者の責任範囲である再商品化義務」は果たされているとのことですが。

今日では、“再商品化義務”を定めた容器包装リサイクル法の上位法である「循環型社会形成推進基本法」にも掲げられているとおり、リサイクルよりも、リデュース、リユースを優先することが求められています。また、ご存じのとおり、PETボトルの回収率が高いのは自治体が集めていることが寄与していますが、事業者はその回収費用を負担していません。これでは、事業者としての環境配慮責任を果たしていないのではないのでしょうか？

この点も含め、御社としては、“企業の社会的責任(CSR)”を、どのようにお考えでしょうか？

(回答)

容器包装リサイクル法の枠組みの中で、事業者の役割として、再商品化義務は勿論果たしてまいります。その上で、当社はこれからも事業活動を通じ、“企業の社会的責任(CSR)”を果たしていくために、以下のような環境保全および地域社会・文化に貢献することをこれからも継続的に、積極的に取り組んでまいります。

環境保全につきましては、限りある資源を有効かつ効率よく利用することを重要な使命と考えて、ISO14001の認証を取得し、全社的に環境保全活動を推進しています。また、情報の開示にも心がけ、環境に関する活動状況を皆様にご報告する「環境レポート」をホームページにて公開いたしております。

地域社会・文化への貢献につきましては、酒造資料館と美術館を設置し、文化・美術思想の普及に努めております。また教育活動にも力を注いでおり、灘中学・高校の設立に尽力し、その後も継続して支援を行っております。

5. 最後に、追加質問となってしまい恐縮ですが、御社のホームページの記述についてお尋ねします。

1) ポイント②で、「ガラスびんと比べたCO₂排出量が容器製造時に8割、輸送時に3割削減」と記述されておりますが、回収率の高い一升瓶はCO₂排出量も少ないはずですが、「当社調べ」とありますが、どんなガラスびんと比べているのでしょうか？前提条件を教えてください。

(回答)

容器製造時にCO₂排出量が8割削減されるという内容は、リターナブル対応の瓶ではなく、今回の容量であります1.5L標準のワンウェイ瓶を対象に、「容器包装製造」段階で算出しております。

また、輸送時にCO₂排出量が3割削減されるという内容は、ガラス瓶に比べPET容器が軽く、また、積載効率が高いという点から、同一の輸送用トラックに対してより多くの酒量の積載が可能となります。

このため輸送用トラックの台数を3割削減することが可能となるため、CO₂排出量も同様に削減できると判断いたしております。

- 2) ポイント⑤では、「花見や行楽にぴったり」とされています。この点について、近年、PETボトルの散乱ごみが大きな社会問題になっていることをご存じかと思えます。御社は、今回のPETボトルが散乱ごみとならないような対策として、どんなことを考えていらっしゃいますか？

(回答)

PETボトルだけでなくごみ問題の解決には、消費者の方々の協力が不可欠ですので、リサイクルへのご協力のお願いやポイ捨て防止文言の容器本体への表示を行っております。出来るだけ散乱ごみとならないように、お客様のご協力を得るべく、今後とも啓発に努めてまいります。

以上